

KYOTO SEIKA UNIVERSITY

77.28

Ky 6

EX-LIBRIS-SEIKA



010402611

2012/06/12

01040261

京都精華大学 寄贈

京都精華大学情報館

KYOTO SEIKA UNIVERSITY

京都精華大学は、1968年「自由自治」を理念に設立されました。最初は学生数約200名、英語英文科と美術科からなる小さな短大でしたが、1979年に美術科が美術学部に、1989年には英語英文科が人文学部に改組され、4年制大学へと移行しました。現在は学生数約3000名、人文・美術の2学部それぞれ大学院が設置されています。文化と芸術の総合的な教育・研究をめざし、マンモス大学でもなく単科大学でもない、独自の法論をもつ大学としてその個性を発揮しています。京都精華大学は、よく「ユニークな大学」「一風変わった大学」と評されますが、それは創立者がいない、校門がない、あるいは校章・校旗・校歌がない、といったことがその一因になっているようです。創立者がいないのは、「大学とは、限られた一部の人ではなく、そこに参加するすべての人によってつくり、一人ひとりが主体性を発揮しながら運営していくもの」という万人創立者論、創立者無用論を基本にしているからです。創立者がいないので、とうぜん創立記念日もありません。門や塀がないのは、誰もが自由に入出入りするには不要だからで、また校章・校旗・校歌がないのは、シンボリックなものを上から押しつけるより、誰かが考え出してそれに同調する者が多ければ自然にできるだろうと考えたからです。現在でもまだありませんが、なくても困らないし、逆になんかいいものでは伝統のようになっています。

キャンパス内を歩けば、世間一般のものとは違う、ゆっくりと流れる時間や、自由な空気を誰もが感じることができるはずで、この空間は、学生を個性的に、元気にしてくれます。学生が自分たちで企画し運営する大学祭は、まさに精華らしいバワフルなイベントです。春の「五月祭」、秋の「木野祭」と年2回実施されていて、学生は自分たちの感性やアイデアを総動員し、思いきり楽しめる「祭」に毎回つくりあげていきます。クラブやサークル活動も同様で、自分らしさや楽しさを追求する精華らしいスタイルで運営され、次々と新しいグループが生まれています。キャンパスにはあちこちに絵画やオブジェが見られますが、そのすべてが展示作品というわけではありません。とりあえず置いてあるもの、捨てられたもの、また作品のような落書きも多く、これらが混在した空間は、広大なアート・ギャラリーです。

いつも何かか動いている摩訶不思議なキャンパス。ここには、つねに新しいものへの混沌があります。学生がもつエネルギーが、大学の理念や姿勢にシンクロし、ときには世間一般の常識からみれば呆れるような結果になることもあります。しかし、日本の多くの大学が失ってしまった大学本来の自主的な精神が受け継がれていることは京都精華大学のプライドであり、存在理由でもあります。京都精華大学は、いつも新しい「何か」であり続けたいと考えています。

C O N T E N T S

3 人文学部

- 4 人文学部概要
- 6 フィールドワーク
- 8 人文学部カリキュラム
- 10 大学院人文学研究科 卒業後の進路
- 11 卒業論文
- 14 人文学部教員一覧

15 美術学部

- 16 美術学部概要 カリキュラム
- 18 洋画専攻
- 19 日本画専攻
- 20 立体造形専攻
- 21 版画専攻
- 22 陶芸専攻
- 23 コミュニケーションデザイン専攻
- 24 映像専攻
- 25 建築専攻
- 26 テキスタイルデザイン専攻
- 27 マンガ専攻
- 28 学外実習 京都の伝統美術工芸講座
- 30 大学院美術研究科 卒業後の進路
- 31 卒業作品
- 34 美術学部教員一覧

- 36 学習環境 (学外交流)
- 38 学習環境 (GARDEN・学生生活支援)
- 40 施設 設備 沿革 交通案内

施設 設備

学生の創造性を支えるのは空間的な自由さ、あるいは時間的な自由さです。学生に用意された諸施設は、このふたつの条件を備えたものになっています。美術学部の実習関連施設では、学生一人あたりの面積も広く、各専攻にはそれぞれ専用の設備が用意されています。たとえば陶芸専攻には、大型のガス窯と電気窯が4基ずつある窯場、ロクロ室、コミュニケーションデザイン専攻には最先端技術を取り入れたスタジオや暗室、VTR編集室、テキスタイルデザイン専攻には染実習室、洗い場、織実習室などがあり、学生はこれらの施設を休日や休暇中はもちろん、平日には夜遅くまで使用できます。課題提出前には、夜を徹して作業に没頭する学生も見られます。

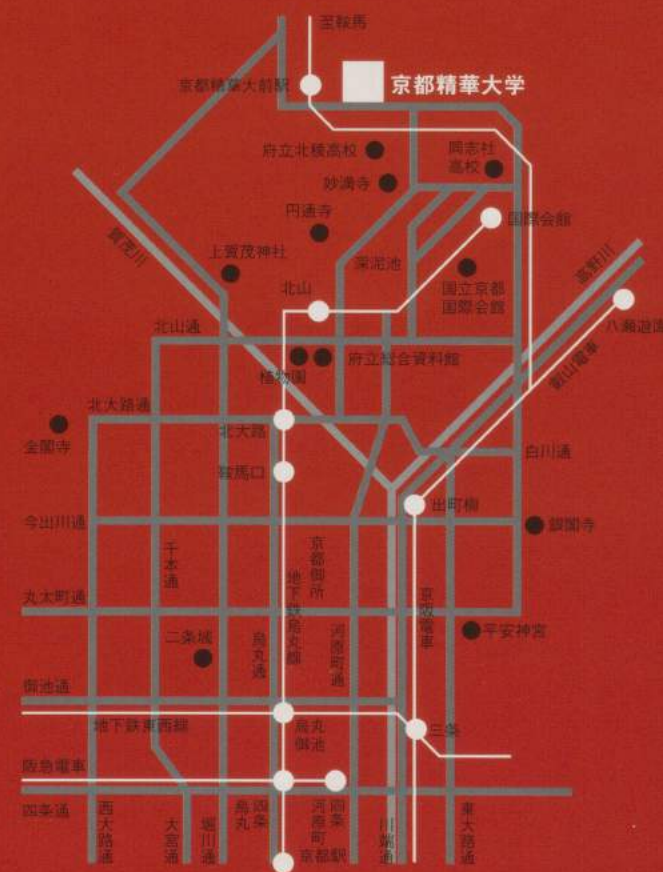
また、従来の図書館の機能を越えた「情報館」は、学部を問わず多くの学生に新しい情報収集・発信の拠点として利用されています。図書の出借システムは自動で、返却も24時間可能。蔵書や資料を検索するパソコンはインターネットも利用できます。情報館内にあるAVセンターには、約1万点の音声・映像資料があり、個人ブースや小グループ用ホールで視聴するほか、さまざまな使い方がされています。60名収容のAVホールで上映会を企画したり、AV制作室やスタジオを使って自分の映像作品を制作するなど、自分を表現するための利用法が多く見られます。

キャンパスの周辺は、洛北の自然を身近に感じられる静かな環境が広がっています。また緑豊かな環境でありながら、街なかにもほど近く、交通の便も整っています。キャンパス内に叡山電車「京都精華大前」駅と、地下鉄「国際会館前」駅行きのスクールバス停があり、いずれも京都の中心地まで約30分という便利さです。

沿革

- 1968 京都精華短期大学を開学
英語英文科(英米文学コース・秘書コース・貿易英語コース・ガイドコース)
美術科(絵画コース・デザインコース)
第1回アセンブリー・アワー講演
- 1970 美術科に染織コース増設
- 1972 英語英文科に国際文化コース増設
- 1973 美術科に立体造形コース増設
デザインコースにマンガクラス増設
- 1975 伊谷記念朽木学舎オープン
- 1979 京都精華大学美術学部開設
造形学科(洋画・日本画・立体造形)
デザイン学科(デザイン・染織・マンガ)
「京都の伝統工芸講座」開設
- 1980 美術学部「学外実習」開始
- 1985 丹後学舎オープン
- 1987 造形学科に版画専攻・陶芸専攻を増設
デザイン学科に建築専攻を増設
米アンティオーク大学との提携
- 1989 京都精華大学人文学部開設
- 1990 ミシガン州立大学アンアバー校との教育交換「サマープログラム」開講
- 1991 大学院美術研究科(造形専攻・デザイン専攻)を開設
- 1993 大学院人文学研究科を開設
豪キャンベラ美術大学と提携
- 1997 情報館オープン

KYOTO SEIKA UNIVERSITY



●京都精華大学へ
①京阪出町駅から叡山電車鞍馬行き(または二軒茶屋行き)に乗り換え、京都精華大前駅下車。
②京都駅から地下鉄で国際会館駅下車。3番出口よりスクールバスに乗り継ぎ約5分。